



# 七月大歌舞伎

令和元年7月4日(木)初日 ↓ 28日(日)千鶴楽

(休演日) 昼の部 11日(木) 夜の部 10日(水)・17日(水)・24日(水)  
(貸切日) 昼の部 6日(土)

【高時】 星の部(午前11時開演)

【星合世十三團】 夜の部(午後4時30分開演)

北条高時	右團次郎	梅次郎	市猿蔵	獅郎	権太	梅丸	新猿郎	新猿郎	市松次郎	廣松次郎	市松次郎	齊入蔵	萬次郎	家次郎	左團次郎	梅丸	右團次郎	雀右衛門
安達三郎	九次郎	梅次郎	市猿蔵	獅郎	権太	梅丸	新猿郎	新猿郎	市松次郎	廣松次郎	市松次郎	齊入蔵	萬次郎	家次郎	左團次郎	梅丸	右團次郎	雀右衛門
愛妾三郎	梅次郎	梅次郎	市猿蔵	獅郎	権太	梅丸	新猿郎	新猿郎	市松次郎	廣松次郎	市松次郎	齊入蔵	萬次郎	家次郎	左團次郎	梅丸	右團次郎	雀右衛門
北条高時	右團次郎	梅次郎	市猿蔵	獅郎	権太	梅丸	新猿郎	新猿郎	市松次郎	廣松次郎	市松次郎	齊入蔵	萬次郎	家次郎	左團次郎	梅丸	右團次郎	雀右衛門

## 昼の部

## 夜の部

### 【高時】 幻想的な演出が見どころの新歌舞伎

天下の執権北条高時は、暴虐きわまりない日々を送っていました。愛妾を相手に酒宴を催している最中、突風が起こり灯火が消えると、雷鳴が響き渡るなか突如現れ出た天狗たちに翻弄されて…。

明治時代、史実に基づいて劇化された活歴劇の代表作。九世團十郎が定めた新歌舞伎十八番のひとつです。

### 【西郷と豚姫】 幕末の世を生きた二人の悲恋

幕末の京都。体格が立派なことから「豚姫」と呼ばれる仲居のお玉は、人柄のよさが誰からも愛されています。そんなお玉が思いを寄せるのは、西郷吉之助。ある日、お玉から心の内を告げられた西郷は…。

ほのぼのとした人間愛と、哀しい恋を描いた新歌舞伎の名作をお楽しみいただきます。

### 【素襖落】 新歌舞伎十八番の名作舞踊

太郎冠者は、主人である大名の使いで、その伯父のもとを訪れます。そこで、美しい姫御寮に酒を振る舞われ楽しく過ごす、饒別素襖まで与えられて帰ります。すっかり酔っ払った太郎冠者は、主人に知られては一大事と素襖を隠しますが、酩酊して上機嫌で小舞を舞ううちに…。

狂言を元に、竹本と長唄の掛け合いによる面白みにあふれる舞踊劇です。

### 【外郎売】 早口の長台詞が目玉

工藤祐経が、大磯の虎や化粧坂少将、小林朝比奈らを従えているところへ、外郎売に姿を変えた曾我五郎が、貴甘坊という名の子供を連れてやって来ます。祐経に評判の早口の言い立てを所望され、外郎の故事来歴や効能を立て板に水の如く披露します。外郎を一粒口にした貴甘坊は…。

曾我狂言お馴染みの人物が勢揃いする華やかな一幕です。堀越勸玄が早口の言い立てを勤める歌舞伎十八番の人気狂言をお楽しみいただきます。

### 【星合世十三團】 古典の名作に新たな息吹を吹き込む

〈発端・序幕〉 壇ノ浦で死んだと思われていた平知盛(ともしもり) 維盛、教経は、それぞれ姿を変え時節を待っていました。一方、兄頼朝と不仲になった義経は、左大臣藤原朝方より初音の鼓を与えられます。しかし、その鼓には兄を「討て」という偽りの院宣が込められていました。

謀反の真偽を問う質すため、堀川の館へやって来た頼朝の使者・川越太郎。義経の正室・卿の君は、川越の実の娘で、夫の窮地を察して自害。そこへ鎌倉方の追手が攻め入ると、武蔵坊弁慶は義経の思いに反して…。

〈一幕目〉 都を落ち延びる義経一行は、伏見稲荷へ。自らを追ってきた愛妾の静御前に都へとどまるよう諭し、義経は初音の鼓を形見として預けます。鳥居前に残された静の危機を、義経の家臣・佐藤忠信が救います。

九州へ逃れるため、大物浦の渡海屋で出船を待つ義経一行。そこへ鎌倉方の相模五郎らが現れますが、渡海屋の主人に追い返され…。その主人銀平こそ平知盛で、密かに義経へ復讐する機会を窺っていました。

〈二幕目〉 北嵯峨の庵室では、主馬小金吾が主人平維盛の妻子の危機を救います。高野へ向かう途中、大和下市村の茶店で、いがみの権太に言いがかりをつけられ…。

すし屋を営む弥左衛門は、平重盛への旧恩から、子息の維盛を奉公人の弥助として匿っています。しかし、それを知った弥左衛門の勘当息子の権太は褒美の金欲しさに…。

〈大詰〉 桜満開の吉野山に、義経を尋ねて旅を続ける静御前と忠信。忠信は静に壇ノ浦の合戦の様子を語り、川連法眼の館で匿われている義経の元へ、家臣の佐藤忠信が訪ねてきます。しかし、その後に静と共に現れた、もうひとりの忠信。静が打つ初音の鼓に、狐の本性を現すと…。

三大名作のひとつ『義経千本桜』をもとに、娯楽性に富んだ演出や新たな趣向、宙乗り、大立廻りを取り入れ、市川海老蔵が主要な十三役を早替りに勤めます。源平の時代に生きた人間たちの運命と修羅を描く壮大な物語をお楽しみください。